

人間と社会 I・II (国際関係学部)

授業概要

(人間と社会 I)

「社会問題」の根源を理解するために、「社会とは何か?」という課題を社会学理論に基づいて解説する。「社会問題」を語る上で注意しなければならないのは、社会は「人間」によって作り上げられているということ——すなわち、社会に「問題」が生じているということは、社会を作り上げている「人間」に問題があるということを知る必要がある。そこで本講義では、「社会」と「人間」のかかわりから必要とされる「役割演技論」について講義する。

(人間と社会 II)

前期に開講した「人間と社会 I」の内容をさらに発展させる。前期は「社会問題」の深刻化と人間の「質」について触れ、後期は人間の「質」を高めるための基礎知識・技術を中心に講義していく予定。我々は「社会」という舞台の上で「人間らしく」振る舞う(演技する)ことを期待されている。例えば、ナースは病院・病棟において「ナースらしく」振る舞う(演技する)ことが求められる。このように、まずは自分が「社会」を理解した「人間」となる必要がある。その認識に至るポイントを、社会学理論を用いて講義する。

授業計画

(人間と社会 I)

1. 社会(学)とは何か? (「舞台」の理解)
2. 社会的動物としての人間(「共演者」の必要性)
3. 「人間」とは何か? (「役者」の基本条件)
4. 人間関係の諸相と構造(「役名」の持つ意味)
5. 人間関係の諸相と構造(演技内容)
6. 基本的人間関係の再考①(恋愛と友情)
7. 基本的人間関係の再考②(恋愛の必要性)
8. 基本的人間関係の再考③(恋愛の進行と対人魅力)
9. 基本的人間関係の再考④(恋愛に伴う欲求と効果)
10. 基本的人間関係の再考⑤(J-POPに見る恋愛観)

(人間と社会 II)

1. 「大人」になる…とは? (問題行動の根源)
 2. 状況(情況)判断と価値判断
 3. アノミーと犯罪(犯罪者へと至る過程)
 4. アイドル工学(求められ、作られる人間像)
 5. 役割演技と演技の放棄(「素直」という神話)
 6. 社会意識(常識と非常識の境界線)
 7. 社会的事実(あなたを支配する目に見えない力)
 8. コミュニケーション①(「共演者」との舞台合わせ)
 9. コミュニケーション②(「共演者」との息の合わせ方)
- その他、各項目の理解を深めるための実験・演習を予定

教科書

服部慶亘著『ストレス・スパイラル——悩める時代の社会学』人間の科学社

履修条件

講義内容を単なる「理論」として学ぶ学生よりも、「実践」を伴うものとして積極的に吸収しようとする意欲のある学生の参加を期待する。

成績評価

極端なまでに(理由もなく)出席状況の悪い者には単位認定しない。評価は終講試験と平常点で行う。

その他

「人間と社会Ⅰ」「人間と社会Ⅱ」を両方とも履修することが望ましい。

なお、質問は随時受け付ける。講義の前後でも、またはインターネットでも可能。アカウントを取得していない学生は、出来るだけアカウントを学内の情報教育センター、またはプロバイダから受けてほしい(学内でアカウントを取得するのは無料)。今後、インターネットは国際社会の激変に対応する必須ツールとなる。

講義内容に関するURL <http://nihon-u.bewith.ac>

講義内容に関するメールアドレス yoshibei@ir.nihon-u.ac.jp